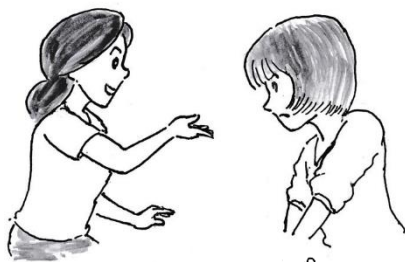


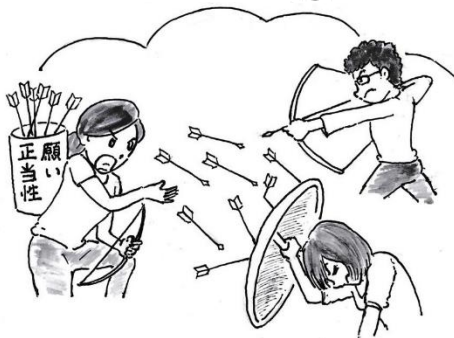


保護者との信頼関係をつくる ～ 目標を共有する ～

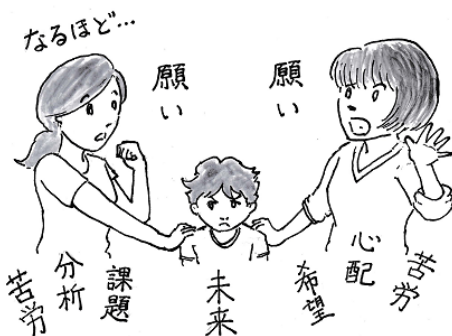
宿題をしてこないで休み時間に宿題をさせている児童の母親に「家庭で宿題をさせてください。」と電話でお願いすると、「忙しくて見てもらえない。学校でやらせて。」と言われた。夜には、父親から「休み時間に子どもに負担をかけすぎだ。」と電話がかかってきました。



子どもへの思いを込めて、
話しているのですが...



このように感じられてしまうこともあります。



関わりの基本は、傾聴、共感、整理

共通目標



学校と家庭の関係は子どもへの指導に大きく影響します。保護者とよい関係をつくっていききたいものです。

休み時間も熱心に指導されている先生と余裕のない生活を訴えられる保護者。子どもに何を望むかにもずれがあるようです。結果、言い分をぶつけ合ったという形になりましたね。

「一方的に学校の言い分を伝えられた」と保護者に感じられてしまうと、関係は一気に悪化します。先生への信頼がなくなると、保護者は、「わが子が嫌な思いさえしなければそれでよい」と、わが子主義に偏っていきます。

まず、子どもの目標を保護者と共有すること、そして協力関係をつくるのが大事です。わかってはいるのですが、保護者と話し合うよりも、自分が正しいと考えることを伝える方に力が入ってしまいませんか。

協力関係をつくるために、話し合いの場を設ける

- 電話よりも面談で保護者と話し合う場を持つ。
- 子どもの目標を保護者と共有する。
- 協力体制ができれば、家庭と学校で一貫性をもって子どもを支えることができる。

話し合いの場で関係をよくするポイント

- 最初に、話し合いに応じたことへの感謝を。
- 自分の考えの正当性を理論的に伝えるより、保護者の立場に立って気持ちを理解することから。子育ての苦勞を認め、ねぎらう。
- 「何をどのようにしたらいいのか一緒に考えましょう」という姿勢を伝える。
- 過去の原因追究ではなく、未来を考えてどうなればよいか、そのためにはどうしたらいいかという視点で協力（連携）を考える。

※脅迫的な言動や深夜電話など、際限のない要求行動がある保護者の場合は、別の対応が必要です。

見直すポイント

- ① 保護者に「一方的に言い分を伝えられた」と感じさせない。
→まず、目標を共有する関係になることを意識する。
- ② 子育ての苦勞の理解も示しながら、一緒に目標を考える。
→家庭でできること、学校でできることを具体的に。

トラブル発生時の保護者対応 ～ チームで保護者と連携を ～

金曜日の夕方になってから、子どもがいじめられたと言ってきました。子どもから訴えを聞くだけは聞きましたが、月曜日から対応するのでは遅いでしょうか。



チームで対応。
そして、早さと事実が大事です。
未来に向けての改善策に、知恵を出し合
いましょう。

被害側の家庭にだけ連絡をして、
加害側の保護者に知らせなかったこ
とから問題が深刻化したことがあります。
子どもを育てる協力者として、加
害側の保護者とも丁寧に連携を。

問題行動や事故の時こそ、保護者との信頼関係を深めて対応していく必要がありますね。信頼を損なう最大の要因は、初期対応の遅れです。一人で抱えないで、すぐに他の教員と共有してチームで対応してください。

ポイントは、保護者への最初の連絡は、子どもが帰宅する前に入れることです。保護者が子どもから先に聞くと、子どもの主観が受け取り方のベースになります。他の保護者などから先に情報が伝わると、学校への不信が生じます。最初に先生からの報告があり、学校の考えや方針が理解できれば、保護者は学校と同じ視点でトラブルに向き合えます。

初期対応の連絡は、早さと事実が大事

- 確認できた事実を話す。憶測は伝えない。
- わからないことは不明だと伝える。
- いつまでに、何をするか等、今後の対応を説明する。
- 保護者をお願いしたいことも伝える。
- 保護者の話を傾聴することが大切。
- 今後も連絡を取り、保護者と一緒に考えていく姿勢で。
- 自分で判断できない場合は、後日連絡することを伝え、管理職に相談するなど、早急に対応する。

事実確認はチームで行う

子どもの気持ちを受け止めながら、まず事実確認を行います。集団ではなく一人一人から話を聞きます。複数の教員で役割分担をして、関係する子どもたちを個別に同時進行で聴き取るのが原則です。それぞれが聴き取った内容を照らし合わせて、事実の確認・分析・方針の決定を行います。

保護者への対応の基本

- 電話か面談かを判断。原則は、複数教員による面談です。
- 正確な事実に基づいて経緯や概要を伝える。
「誰が悪い」ではなく、「何が悪かった」という視点で。
- これまでの指導内容、今後の方針を明らかにする。
- 保護者の意見を十分に聞き取る。
事実を伝えるだけでは、保護者の不安は消えない。不安や不満、何に困っているかを理解しながら、寄り添う。
- 終わった事象でなく、これからの改善策を相談する。
- ねぎらいや謝罪も丁寧に伝える。

見直すポイント

- ① 初期対応は、早さと事実が大事。
→子どもより先に保護者に伝える。憶測は交ぜない。
- ② 一人で抱え込まないで、チームで対応する。
→事実・学校の方針・共感的理解から解決策を見つける。